KYOTO KEIKAN FORUM 2016 ANNUAL REPORT

景観整備機構
NPO法人京都景観フォーラム
/年次報告書

目次 / CONTENTS

03　鴨川景観プロジェクト
04　深草プロジェクト
05　七条通界わいプロジェクト
05　第 1 回、第 2 回 TFD 日台民間交流国際シンポジウム in Kyoto
06　京都市地域景観まちづくりネットワーク
07　京都景観エリアマネジメント講座
07　景観まちづくり専門家派遣事業

ごあいさつ

「京都市未来まちづくり 100 人委員会」で活動を始めて 8 年。ＮＰＯとして 5 年。京都市景観整備機構として 2 年。会員数 80 余名。私たちの活動も少しずつ広がって参りました。

2007 年に施行されたどこよりも厳しい景観政策により、京都のまちも徐々に整えられてきました。京都市より「地域景観づくり協議会」の認定を受けて積極的に景観まちづくりに取り組む地域が、先月 4 月で 8 地域となりました。市民が、自分たちのまちを自分たちで美しく暮らしやすく守り育てていくという、意識と力をつけ始めたように感じます。

私たちも、地域の景観まちづくりをお手伝いしながら、市民の皆様とともに、成長をしていきたいと願っております。引き続きのご支援を、よろしくお願いいたします。

理事長 / 内藤 郁子

執筆者紹介（五十音順）

小林明音 /p.3
篁正康 /p.4
内藤郁子 /p.7
中村伸之 /p.5
森川宏剛 /p.6,7
松本よし子（有限会社エイブル）/ 編集デザイン

景観整備機構
NPO法人京都景観フォーラム
/年次報告書

発行 / 2016 年 5 月 28 日
ＦＡＸ：075-491-9663
メール：kkf@kyotokeikan.org

鴨川景観プロジェクト

文：小林 明音　*Kobayashi Akane*

京都市の中心部を流れる鴨川の景観を考えるため、都市における自然空間と人の営みの調和をテーマに鴨川あるきを実施し、関係者のネットワーク構築を行った。また、七条大橋が平成 25（2013）年に竣工百年を迎えたことをきっかけに、七条大橋の歴史的、文化的、景観的価値の認識を広める活動を実施した。

写真：「鴨川が“むすぶ”自然と暮らしと～下鴨神社から上賀茂神社へ、満開の桜並木を往く～」の様子（平成 27（2015）年 4 月 11 日実施）

□鴨川あるき

平成 27 年度の鴨川あるきは、平成 27（2015）年 4 月 11 日、7 月 11 日、7 月 25 日、12 月 12 日の年 4 回開催した。春には、鴨川の水を引き込む下鴨神社と上賀茂神社の由緒と縁結びの由来についてお聞きし、その間をむすぶ鴨川で植生や生態系の営みを見つけながら歩いた。夏には、鴨川の源流の一つと言われる北区最高峰の桟敷ヶ岳のある雲ヶ畑へ伺った。地元で元気に活躍されている久保さんの手作り弁当を片手に、雲ヶ畑・足谷「人と自然の会」の方々と一緒に鴨川源流を辿った後、先祖代々続く雲ヶ畑のくらしのお話を伺った。冬には、上賀茂神社社家町に残る古地図を鑑賞させていただきながら鴨川と上賀茂神社とのつながりを学び、神社へ鴨川の水を引く入口となる柊野の取水口まで辿った。

昨年度実施のテーマに加え、参加者の要望に応えたテーマでも新たに開催することができ、効率的に事業を実施できるようになった。この企画は毎回約 8 km 前後を歩くため、お昼はおむすびを頂く。自然と暮らしをむすぶ、２つの神社をむすぶ、掌でおにぎりをむすぶ、人と人とのご縁をむすぶ･･･。様々な「むすぶ」をテーマにしているため、来年度からは企画名を「鴨川おむすび紀行」に改めて実施する予定である。

□七條大橋をキレイにしよう

七條大橋（＊1）は、日本で鉄筋コンクリート技術を取り入れ始めた明治末期に着工しており、今も現役の道路橋として使用されている鉄筋コンクリートアーチ橋としては群を抜いて巨大である。黎明期の鉄筋コンクリートアーチ橋として貴重な土木遺産であり、洪水などで多くの橋が流出した鴨川で唯一明治期の意匠を残す近代遺産であるため、明治以降の京都の近代化を表徴する資産として高い価値を有する。竣工 100 年目となる平成 25（2013）年 4 月 14 日に百年目の橋渡りを実施した後、七条通界わいのブランド化を軸とした活動が続いていたが、七條大橋に着目する具体的な取り組みを続けることができなかった。このため、平成 27 年度は東山区まちカフェプロジェクトの「七条大橋をキレイにしよう！」プロジェクトに参加し、7 月から月 1 回の清掃活動を開始し、3 月には賛同者拡大を目的としたパンフレットの作成に協力した。

月 1 回（毎月 7 日の 9 時から）の清掃活動を通して、七條大橋を大切にする活動の見える化ができ、地元や関係者へのアピールにつながった。毎回清掃活動の後に、休憩を兼ねた懇談会を行っており、七條大橋の基本情報の共有や、今後やったら良いと思う活動のアイデアなどを話し合うことで、参加者同士で七條大橋への愛着が深まり、主体的な動きになりつつある。次年度以降は、活動の節目でイベントを実施するなどアピール力を高め、賛同して頂ける方や地元団体へのお声かけをしていく予定である。さらに、七條大橋の歴史的、文化的、景観的価値の認識を広め、有形登録文化財指定を目標とする活動を継続したい。

（＊1）右岸南側親柱に「七條大橋」と記載されていることからこの文字を用いる。

写真：七條大橋をキレイにする会参加者の皆さん（毎月 7 日 9 時から）

深草プロジェクト

文：篁 正康　*Takamura Masamichi*

1, 鴨川運河会議

平成 27 年度は、協働で事務局を形成する深草支所のまちづくり事業としては最終となるため、参加者が今後持続的に活動を継続できるための支援、基盤整備に注力した。

『自立的運営意識付け期』

年度前半、支所主催の公式鴨川運河会議の開催時期は『自立的運営意識付け期』と位置付けられる。年度当初は、桜のライトアップに合わせ実施したウォーキングや写真講座、カフェの振り返りを中心に、第 0 回として『SET ！カモウン』を開催、その後、参加者各々が鴨川運河で実現したい内容を検討し、それらを実現するためのチーム形成を促す流れを、『HOP』、『STEP』、『JUMP』と 3 回を通して行った。この間、常に今年度限りの事業終了を伝え、目的実現のために必要な要件の整理を促すことで、参加者の自立意識を高めることとした。昨年からの継続的参加者に今年度新規参加者も交え、最終的に 8 つの目的別チームが形成された。

写真：カフェ、音楽イベントの様子

『組織形成見守り期』

公式鴨川運河会議終了後は、参加者からの要望に合わせ、『(仮) カモウンチームミーティング』として月一度集まる機会を設けた。ここには毎回 20 名ほどが集まった。9 月から 11 月にかけて、各チームと全体の関係、今後の目標と運営体制等について、検討事項を投げかけながら、自立した『Re 鴨川運河会議』が形成されるよう、寄り添い、伴走しつつ、見守る関係を保った。

『成功体験積み重ね支援期』

年度後半は、各チームが柔らかな連携のもと、助成金を活用しながら、成功体験を重ねることの支援を行った。支所からの助成金は小額ながら、それぞれが目的の実現について思考し、小さな成功体験を重ねることで、今後の活動への自信につなげるという点で、大きな意味があった。また、シンポジウムの開催や活動報告会を開催することで、各チームの活動を他者に伝える場、機会を設けた。チーム活動に関する発表の場の提供は、地域に活動を周知し、理解を得ることに加え、参加者自身がセルフエスティームを高められる機会ともなった。また、広報誌として『鴨川運河通信』を発行した。

シンポジウム『鴨川運河の魅力再発見』

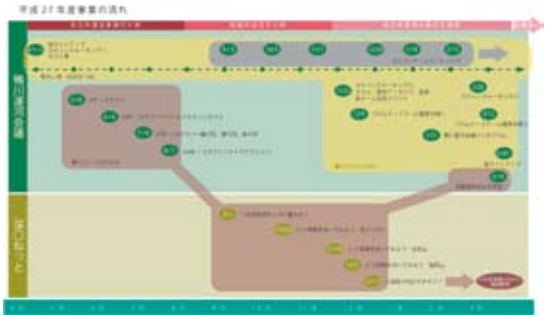
シンポジウムは 1/31、深草支所を会場に、鴨川運河会議と京都景観フォーラムの共催で実施した（参加 118 名）。

地域住民を主対象に、琵琶湖疏水水系の他地区と比べ注目度が低く、これまで公の場で語られることが少なかった鴨川運河の魅力を伝えることを目的とした。京都市上下水道局、疏水記念館の公セクターからは、鴨川運河の基礎知識を、大学の研究者からは、都市史、景観、土木遺産、それぞれの専門分野から見た鴨川運河の魅力を語っていただいた。参加者を交えた質疑応答も活発に行われた。新聞 2 紙にも取り上げられ、広く市民が『鴨川運河』の地域資源としての価値を再評価し、地域まちづくりの文脈におけるその在り方を考える契機とすることができた。

2, 深草まるごとつながりネットワーク

深草支所主催の新しいまちづくり事業として、深草まるごとつながりネットワーク (通称：深〇ねっと) を立ち上げた。今年度は、深草に存在するまちづくりに関する様々な課題の中から、『みどり』にテーマを絞り、3 つのステップで構成される事業を実施した。

第 1 ステップは、これまで深草で取組まれてきた緑に関する活動を、その実践者から話題提供いただくことで、テーマへの気づき、動機づけとした。第 2 ステップでは、実際に現場を見るフィールドワークを 3 回開催し、第 3 ステップは『未来型ワークショップ』と題し、これまでの流れを踏まえて考える、30 年後の理想の深草を、大きなマップにコラージュするワークショップを行った。参加者からは、深草各所のみどりについて、地域資源としての掘り起し、活用策が表現された。この理想の実現に向けて、次年度以降の取組みを検討することとなった。



図：今年度の流れ

七条通界わいプロジェクト

文：中村 伸之　*Nakamura Nobuyuki*

写真：生物多様性をテーマとした都市景観を研究（左）、京都駅ビル緑水歩廊に飛来したイソヒヨドリ

地域住民、芸術大学、クリエーター、学識者、まちづくり NPO などが集い七条通界わい（東大路通〜西大路通）の歴史と未来を語り合う場をつくり、文化資源や人材、新旧の記憶や想いをつなぎ、皆さんと議論して、世界に向けて発信する地域の未来像を描くことを目的とした。

高瀬川町歩き（2015 年 9 月 27 日・五条〜塩小路・19 名参加）やシンポジウム「京都市立芸術大学移転を機にマイノリティ・まちづくり・民主と人権を考える」（2015 年 11 月 27・28 日、122 名参加）を通じて、崇仁・菊浜学区・京都市立芸術大学・東九条の在日コリアンコミュニティとの連携を探った。地域と東本願寺や福祉施設とのネットワークを活用して、国際シンポジウムを開催したことは地域の文化力を顕在化し、差別を克服する京都市と市民の取組みを、まさに「世界に発信」することになった。

台湾との民間交流という点でも成果があり、シンポジウムでお互いの社会への理解が深まったことが評価を受け、2016 年 4 月に第 2 回シンポジウムを行うこととなった。

門川京都市長はシンポジウムのあいさつで「日本・京都が東アジアの国々ともっと交流して、世界の平和に貢献できる」と語ってくれたが、東アジアの平和と安定のために民間外交が果たす役割が大きく、京都そして七条通界わいはその舞台にふさわしいという思いを強くした。

さらに、界わいは都心部でありながら豊かな自然があり、野生生物の生息環境となっていることが分かった。東山、鴨川、寺社の緑、梅小路公園「いのちの森」、京都駅ビル「緑水歩廊」、芸術大学などのエコロジカルネットワーク形成や京都駅西部エリア開発との関係づくりなどの課題とビジョンを探った。

これらの成果は冊子「世界に発信！！七条通界わいの魅力〜環境と人権のまちづくり」にまとめた。

第 1 回、第 2 回 TFD 日台民間交流国際シンポジウム in Kyoto

文：中村 伸之　*Nakamura Nobuyuki*

先述の第 1 回に続いて、2016 年 4 月 1・2 日に、「官民協働、市民参加と地方自治」をテーマで、日本と台湾を比較検討する第 2 回シンポジウムを開催した（110 名参加）。

シンポジウム参加者と門川京都市長

京都においては、京都市未来 100 人委員会や各区役所での住民ミーティングや助成事業、京都府地域力再生プロジェクト支援事業が実施され、住民参加やエリアマネジメントの取り組みが行われている。

会場となった立誠小学校は人口減少により廃校となったが、歴史ある校舎は保全され老若男女が集う文化活動の拠点として活用されている。以上のような取り組みを、京都経験（Kyoto experience）として提示し、台湾における地方都市経営、災害からの復興、自然と共生する地域開発の経験と比較し議論した。

七条通界わいプロジェクトは「下京区区民が主役のまちづくりサポート事業」、「京都府地域力再生事業」、「都市環境デザイン会議プロジェクト支援」の助成を受けた。2 回のシンポジウムは台湾政府の外交機関である「財団法人台湾民主基金会（TFD）」との共催、台湾・東海大学日本地域研究センター（陳永峰センター長）との協力で実施した。

京都市地域景観まちづくりネットワーク

文：森川 宏剛　*Morikawa Hiroyoshi*

地域景観づくり協議会の認定を受けた地域は、7 地域ある（平成 27 年度末時点）。その 7 地域の中心的な担い手達の自主的な集まりが、平成 26 年度から始まった。平成 27 年度は、この動きを発展させ継続的な活動とするため、協議会のネットワークを立ち上げることになった。

当面の課題は、制度の周知

会合を重ねる中で、当面の課題が制度の認知度を高めることであると明らかになった。制度に則り協議にくる建築主や事業者が全く制度のことを知らないため、地域の担当者が一から説明する必要が多く生じている。また地域内外の人に理解を広めるにしても、制度そのものを知らない、あるいは公的な位置づけがされていることだとの認識がないといった背景から、理解が進みにくいといった問題もある。さらには、行政内部での周知が徹底していないため、事前協議が必要であるにもかかわらず、それをせずに建築行為等を進めてしまう事態も出てきた。そのため、京都市との連携を強め、制度の認知度を高める取組を進めることとなった。

おむすびミーティングをきっかけとして

一連の取組の端緒として、京都市長をネットワークにお招きし意見交換する場をもつことになり、8 月 3 日おむすびミーティングを開催した。

写真：市長を交えたおむすびミーティングの様子

意見交換では、この制度を活用して、それぞれの地域でそこにあったユニークな景観づくりの取組が進められていることや、話し合いを通じて、景観問題にとどまらず新しく住まわれる人がコミュニティに調和していくプロセスがすすめられていることなどを共有した。

また今後の課題として、制度の周知や制度の運用に京都市とのさらなる連携強化が必要であること、また現在の基準の改善や現実的な制度運用、無電柱化、樹木、交通問題など公共空間の景観づくりなど、将来を展望する課題を共有した。

最後に、それぞれに違う特性をもつ 7 地域が、景観というテーマで結び付いて、課題意識を共有しながら前進していく取組は、京都の景観政策にとっても大きな推進力であることを確認しあい、市長も交えて名称を“京都市地域景観まちづくりネットワーク”とし、正式に発足することとなった。

制度周知のパンフレットを京都市と共同発行

おむすびミーティングの様子を含め、地域景観づくり協議会の 7 地域と制度の周知を行うパンフレットを、本ネットワークと京都市で共同発行した。

各協議会や京都市の窓口等での配布のほか、業界団体などにも配布する予定である。

図：ネットワークと京都市が共同発行したパンフレット

制度の可能性を評価し、地域景観づくり協議会の認定を目指す地域も出てきている。

仁和寺門前まちづくり協議会は、平成 28 年 4 月に新たに認定された。

また、京の三条まちづくり協議会、元吉町まちづくり部、嵐山景観まちづくり協議会準備会が、現在認定に向けて活動中であり、いずれも景観フォーラムで、その立ち上げを支援している。

こうした取組がさらに広がりながら発展していくことに貢献していきたい。

京都景観エリアマネジメント講座

文：内藤 郁子　*Naito Ikuko*

景観と人と文化の関わりを学ぶ講座

「景観まちづくり」を進める際には、その地域の歴史や文化、経済の状況、人々の暮らし方などのさまざまな情報を読み取り、地域住民の価値観を景観に結実させていくことが求められる。本講座では、こうしたプロセスに関わる各方面の専門家を養成することを目的に、景観まちづくりに関する幅広い分野の基本的な知識を学んでいる。

本講座では、景観とは何かという基礎理論から、京都のまちの特性と歴史を学ぶとともに、建築や土木・ランドスケープ、政策や法律、まちづくりなどの理論や考え方などに視野を広げつつ、日本人の美意識や作法も取り入れている。基礎講座では全８回を通じて「景観まちづくり」についての基本的な視点を身につけ、実践講座ではフィールドワーク、ワークショップなどを通じて、景観まちづくりを支援するための姿勢と技術を学ぶ。修了後、「京都景観エリアマネージャー」として登録し、当法人の景観まちづくりの活動に取り組んでいる。

現在までの基礎講座の受講者数は 166 名（単回のみの受講者を除く）、実践講座の受講者数は 74 名、京都景観エリアマネージャーの登録者数は 52 名となっている。

今後もさらに景観を学び、地域の「景観まちづくり」を支援する専門家が増えることを期待している。

平成 27 年度　カリキュラム

□第６期 基礎講座（通年受講者 22 名）

	テーマ	講師
第１回	基礎理論（1）景観とは何か	堀繁氏
第２回	基礎理論（2）景観のマネジメント	宗田好史氏
第３回	京都のまちの形成と景観史	高橋康夫氏、中川理氏
第４回	土木と景観デザイン	山田圭二郎氏、篠原修氏
第５回	京の生活文化	谷晃氏、矢ケ崎善太郎氏、笹岡隆甫氏
第６回	建築とランドスケープ	江川直樹氏、佐々木葉二氏
第７回	景観政策と法律	飯田昭氏、石田光廣氏
第８回	景観まちづくり・修了式	髙田光雄氏

□第５期 実践講座（受講者 14 名）

	テーマ	講師
第１回	景観	堀繁氏
第２回	色彩	渡辺安人氏
第３回	ファシリテーション	中田豊一氏
第４回	修徳学区のまちづくり	門内輝行氏
第５回	ワークショップ	京都景観フォーラム
第６回	レポート発表・修了式	髙田光雄氏

景観まちづくり専門家派遣事業

文：森川 宏剛　*Morikawa Hiroyoshi*

京都景観エリアマネージャー（以下、エリマネ）は、平成 27 年度末で登録者 52 名となった。景観フォーラムでは、エリマネの活動の一つとして、地域や公的機関などの要請に応じて、専門家の派遣を行っている。

平成 27 年度は、以下のように 20 件、のべ 34 名の派遣を行った。今年度は、京都市や景観・まちづくりセンターを介さない、直接の相談もあった。景観フォーラムの活動の広がりが、認知度の向上や、さらなる活動機会につながる可能性があることが分かった。その専門性に磨きをかけること、まちづくりの協働の作法を身に付けることを大切にしながら、活動を広げていきたいと考えている。

◎専門家派遣の実績

［平成 27 年］		
４月	嵐山地域まちづくり相談	（1 名）
７月	柊野ビジョン推進委員会アドバイザー	（2 名）
９月	八瀬保勝会相談対応	（1 名）
10 月	八瀬保勝会相談対応	（2 名）
〃 月	京都市地域景観づくり講座 ファシリテーター（×2 回）	（2 名）
11 月	上京区地域まちづくり WS	（1 名）
12 月	京都市地域景観づくり講座講師	（1 名）
〃 月	まちづくり共同研究会	（2 名）
〃 月	上京区地域まちづくり WS	（1 名）
［平成 28 年］		
１月	東山区元吉町まちづくり勉強会	（2 名）
〃 月	嵐山地域まちづくり相談	（1 名）
〃 月	上京区地域まちづくり WS	（1 名）
２月	東山区元吉町まちづくり勉強会	（2 名）
〃 月	東山区元吉町まちづくり勉強会	（2 名）
〃 月	上京区地域まちづくり WS	（1 名）
３月	建築協定連絡協議会 25 周年事業ファシリテーター	（4 名）
〃 月	東山区元吉町まちづくり勉強会	（2 名）
〃 月	東山区元吉町まちづくり勉強会	（2 名）
〃 月	京都市景観市民会議ファシリテーター	（2 名）

KYOTO KEIKAN FORUM

NPO法人京都景観フォーラム
http://kyotokeikan.org/
FAX : 075-491-9663
MAIL : kkf@kyotokeikan.org

発行日 /H28.5.28